

図書館ニュース

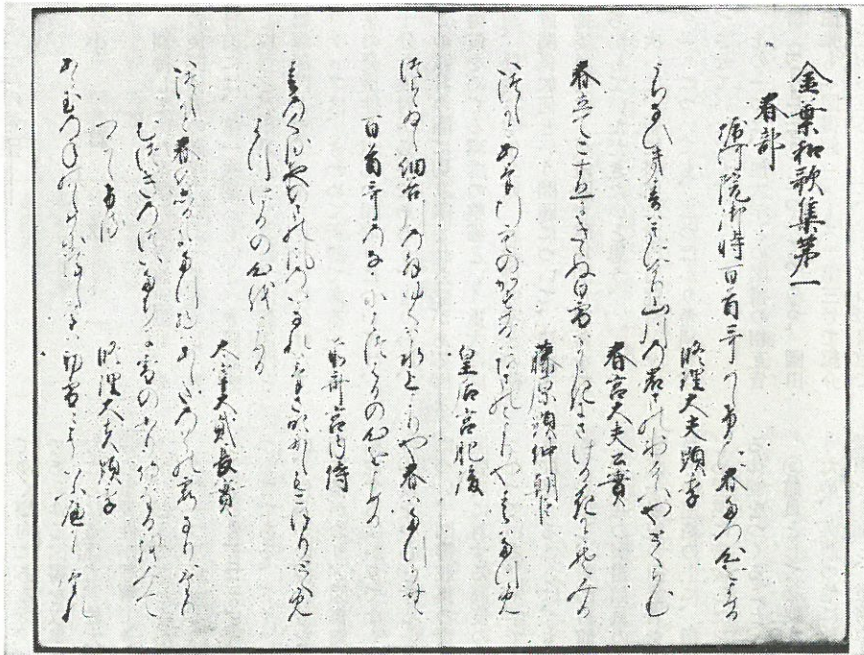
No. 9

1968

43・4・10・発行

発行人 園田 義道

発行所 東京都文京区白山5丁目28番の20号 東洋大学附属図書館



伝姉小路基綱筆 金葉和歌集

新図書館着工の日近し

図書館長 園田 義道

かなり前から行き詰って研究、学習上に一大支障を与えている手狭すぎる現在の図書館の建てかえ、八十周年記念事業の一環としての新図書館建築にやつと陽光がさして、その全容が我々の眼前に屹然と姿を現わす日もそう遠くないさきになった。足かけ四年越しの図書館建設準備委員会の第十四回目の昭和四十三年三月十九日に開かれた会合は、委員会開設以来もっとも活潑に展開された論議の末、工学部建築学科設計の基本構造を全員一致をもって採択した。

建坪約一三〇〇坪、書庫部門を含めればほぼ一六〇〇坪、鉄筋コンクリート作り、地下一階(一部)、地上四階建て、書庫は九層ここには空気調整が行なわれる。建築費約二億五千万円(内部設備は別)予定としては本年六月着工、来年五月までには竣工の見込みである。

建設位置は大講堂南側の新購入地で南側道路に面し、この道路と大講堂西側の双方から新図書館に入ることが出来る。通路のためかなり広いピロティ部分が設けられるがこれは坪数は算入されない。書庫は約四十万冊収蔵可能、閲覧席は約一〇〇〇となる。しかし現在はモデューションの基幹が決定された段階であって、内部構造、機能関係の決定は今後の重要作業となるのである。

この委員会で附带条件となったことが二つある。一つは増築可能なこと、第二は学内研究施設との有機的連関に対する配慮。第一点については上部への増築可能、西側への延長可能な構造とすることが既に設計者との間に話し合済みである。第二については新図書館との有機的連関における白山キャンパスのマスタープラン立案を学校当局に強く要望する。

ドイツの大学図書館と本学新図書館

——留学中の見聞からする二三の希望——

小 倉 欣 一

一昨年秋二年にわたるドイツ留学から、懐かしい本学に帰ってきたとき、真先に目についたのは、一号館の偉容に比べてあまりにも貧弱な中央図書館であった。しかし創立八十周年記念事業として、新図書館の建設が準備中であると聞かされ、ほっと救われた気持ちになったのを、私は今でもはっきりと覚えている。

周知のように、第二次大戦でひどい痛手をうけたドイツは、あの「経済上の奇跡」のおかげでどうやら立直ったわけであるが、大学では、復興がまだ完了せぬうちに、学問の新たな発展と進学者の急増という事態が生じ、これに対処するため、今や各地で新構想による学園づくりが進行中なのである。したがって、私の学んだマールブルクのような、例外的に戦災をまぬかれた大学にあっても、図書館を中心に、各種の研究塔を周囲に配した、将来の学問研究のあり方を示唆する印象的なプランが実現しつつあった。まことに図書館は、これからも大学の心臓であり、学問の象徴であり続けるだろう、との感を深くしたのである。

期待していた本学の図書館建設も、その後関係者の御尽力によって進行し、数日前には、第一次案ともいへべき設計図と模型とが出来上ってきた。閲覧部門と書庫部門とを二つのブロックに分けたアイディアは、きわめて新鮮であるが、将来の発展性と内部の間取りについては、十分な検討が必要であろう。とりわけ、この設計の際に切り離された感がある図書館をめぐる環境の整備という重大な問題、懸案の学生会館、新設研究室との位置関係如何という問題について、建設準備委員会は、現段階で積極的な方針を打ち出していたいだきたいと思う。

次いで、新図書館における運営、サービスについても、二つばかり希望を述べさせていただく。

その一つは、他大学との図書相互貸借 (Fernleihe) についてである。園田館長も『図書館ニュース』第三号で紹介しておられるように、ドイツの図書館でこれは、まったく普通の業務であり、私自身も大いに利用した経験がある。山内課長のお話では、幸い日本でもこの制度

だけは存在する由なので、運搬や紛失時の補償など必要な諸問題を解決され、一日も早く実施に移していただきたい。学問が現在のように、ますます専門分化してゆく傾向にある折、一つの図書館だけではあらゆる図書を収集することが不可能なことは道理で、他大学とてこの制度活用の重要性が理解できぬはずはないと思うが、どうであろうか。

他の一つの希望は、専門司書制度 (Wissenschaftlicher Bibliothekar) についてである。ドイツの大学図書館には、何らかの博士号をもつ十人内外の専門司書があり、図書館の運営面で館長を補佐するばかりでなく、それぞれが自己の専攻を中心とするいくつかの学問分野について図書収集の責任を負い、同時に閲覧者に対する高度のレファレンスをおこなっている。本学でこの制度をそのまま採用することは、もちろん困難であろう。しかし、新図書館の建設を機会に、

①現在の図書館員の中で、少くとも各学部一名宛の担当者を選び、当該学部教員との連絡の上に、指定図書の選定をはじめ授業に密接したレファレンスができる体制をつくること、
②館員として必要な外国語の能力を養うため、英語の他に独仏露中国語の特別講座を企画し、業務の一端として受講できるようにすること、この位のことだけでも考えられないだろうか。さらに私は、図書館員についても、海外、国内研

修制度を設けてよいのではないかと思っ
ている。

こういった問題については、図書館運営委員会で、是非とも検討していただきたい。また運営委員会も、予算関係以外にはあまり開かれたい会議ではなく、今後は教授会と同様に、月一回の定例会をもち、図書館の改善向上のため当面する諸問題に積極的に取組まれるよう合わせて希望させていたたく。

学問の府の象徴である図書館が建設されるという素晴らしい晩に、図書館問題について発言することは、東洋大学という自治体に市民権をもつすべての教職員、学生の権利であり、義務であることを最後に自他ともに再認識したいと思う。

(一九六八・三・二一)

(経済学部講師)

お知らせ

増加目録第七号(和洋分冊)が出来上りましたのでお知らせ致します。
御入用の方は図書館館長室迄お申し出下さい。

哲学堂は、言うまでもなく学祖井上円了博士が明治三十五年、東京府下和田山（現中野区江古田）に、哲学館大学（本学の前身）の予定地として購入し、三十七年四聖（釈尊、孔子、ソクラテス、カント）を祀る四聖堂を建設したのに始まり、本学とゆかりの深い公園である。

明治三十九年井上博士は哲学館大学退隠後、大学移転を見合せ、同堂を精神修養の公園とする計画を立て、その目的達成のため図書館建築を大正三年十二月中旬着工、同四年十月二十四日落成、翌五年六月四日には日曜日に一般公開している。

所蔵図書は、井上博士が明治十九年より、三十二年間私財で購入した蔵書中、明治維新前の著作和漢古書六、七九二種、四一、五八五巻二一、一九三冊（若干の明治期の著作を含む）を提

- 供したもので、全蔵書とも分類順に書架に配列して収納されている。
- 分類は、国漢書と仏書とに大別し、国漢書は、
 - 神教部 二類
 - 政治経済部 附農業
 - 天文歳時部
 - 地理紀行部
 - 史伝部 六類
 - 文学部 十一類
 - 修身道話部 二類
 - 民間読本部
- 儒書部 三類
- 医学及本草部
- 仙書及養生部
- 兵書部 二類

本館寄託「哲学堂図書館」旧蔵書

- 相法卜筮部 類書叢書部 三類
- 書画技芸部 字書目錄部
- 怪談草紙部 三類
- 隨筆部 三類
- 雜書部 皇清経解
- の五十三類、計二、〇二三種、二〇、一六九巻、一〇、七三五冊であり、仏書は、
- 梵学部 小形唐本
- 因明部 大乘律部
- 史伝部 三類 大小阿乘律雜部
- 外道及小乘諸宗部 大乘経釈部 十類
- 小乘俱舍部 二類 法相部 二類
- 類書叢書部 三類
- 字書目錄部
- 皇清経解
- 小形唐本
- 余類 三類（小本）
- 詩文部
- 隨筆部
- 通俗部
- 雜書部
- 類書叢書部
- 法数及音義
- 条目及目錄
- 蔵経部
- 小本部
- 論議部 二類
- の五十一類、計四、七六九種、二一、一四一六巻、一〇、四五八冊である。この分類中、国漢書の、怪談草紙部三類が文学

部と別に立てられているのは、妖怪学者としての井上博士の一面の蔵書傾向を示すものと言えよう。

内容的に見ると、特に稀覯書を集めるといった傾向はなく、和漢書・仏書とも、それぞれの主題に亘って網羅的に収集する方針がとられている。

哲学堂は、大正八年井上博士の他界後、その遺言によって、同年十二月九日付けで財団法人になったが、昭和十六年同財団刊「哲学堂」によると図書館は公開されておらず、その後死蔵の状態となつたことが知られる。尚昭和十八年には同堂は、井上博士の嗣子女一氏によって東京市公園課に寄贈された。

この蔵書が本館に寄託されることになったのは、昭和二十八年の事である。当時の本学理事長大塚又七氏は東京都に運動し、現在のままでは永久に死蔵する結果となること、東洋大学でなければこの蔵書を有効に利用する大学はないことなどを力説、都の民生局長であった、現社会学部磯村英一教授の尽力もあり、本館への寄託が認められたのである。

条件としては、明治文化研究の資料として、学祖研究の資料としてということであったが、何れかと言えば、それを満す種類の蔵書内容ではなく、むしろ我国の伝統的学問の研究資料としての価値が高いものと思われる。（Y記）

哲学ありき

哲学不在の時代だというのが東京・中野の哲学堂公園は入場無料で健在である。明治の哲学者井上円了博士がつくった変化に富む庭園で、中に唯物園、唯心庭、経験坂、主観亭、概念橋……などがある。

正門を哲理門と呼ぶ。薄暗い中に幽霊とテングの木像が仕込んである。幽霊を精神界、テングを物質界の不可解の象徴と見なしたという。その不可解をくぐり抜けて哲理に到達すべしということらしい。別名妖怪門。

又「絶対城」というのがある。図書館である。陳列所を「無尽蔵」と呼ぶ。哲理門に対して、ぶつうの出入り口を「常識門」というなど楽しい限りである。孔子、釈迦、ソクラテス、カントの「世界的四哲人」を「四聖堂」にまつる。要するに明治版の哲学辞典だと見た。

「常識のまま去る花の哲学堂」

昭和四十三年四月十五日付
東京新聞「風声」より抜粋

蔵書の中から

古典的思想家の実証的研究には完璧な著作集が不可欠である。戦後実証主義的古典研究の発展とともに、数々の古典的作家について厳密なテキスト・クリティックによる決定版が刊行され始めた。それにしても、実証主義、経験主義の伝統に立つイギリス・フランスが、テキスト・クリティックの面でドイツに遅れを取っているのは皮肉な現象である。イギリスではロック、ヒューム、アダム・スミスさえ完璧な校訂版全集がまだ出版されていない。

フランスも古典的思想家の優れた校訂全集に必ずしも恵まれていない。最近の刊行物ではここで述べるルソーのほか、目下刊行中のトックヴィル

全集、既刊ではヴォルテール全集(ヴォルテール研究所版)、モンテスキュー全集(マソン版)等が挙げられるが、後二者の内容には若干の問題が残されている。

さて、ルソーについては、従来信頼に値する全集がなかった。政治的著作に関して

は周知のヴォーン校訂版(全二巻)があるが、この内容だけでは、この大思想家の全貌を把握するには足りない。最近ブレイヤード版で厳密な

校訂による全著作集(既版三巻まで)

が刊行されつつあり、その完結が待たれるが、ルソーのばあい——ヴォ

ルテールとは別な意味で——彼の書

簡集も不可欠な研究資料である。ルソーは有名な『告白』やその他の自伝的作品(『対

話』『孤独な散歩者の夢想』等)を遺しているだけに、われわれはかえってルソーその人の歴史の実体や思想的発展について誤った先入観を持たされがちなのである。幸

いルソーは持ち前の病的綿密さから、ほとんど全生涯にわたり、自他の往復書簡を保存していた。したがって、彼の書簡集は、彼の歴史の実像や思想的形成の研究資料と

して又とない貴重な宝庫である。事実、この珍重すべき財宝に着目したテー・デュフールは六十年を費してルソーの往復書簡を蒐集し、『告白』との対比や校註を施した。

この草稿に基づいて上梓されたのが『ジャン・ジャック書簡大成』(全二十巻——一九二四年〜一九三四年) Correspondance générale de J.-J. Rousseau, collation-

née sur les originaux annotée et commentée par Théophile Dufour, 20 Tomes, 1924—1934. の大著であり、従来までのルソー書簡集決定版であった。

この『』によって取り挙げた『ジャン・ジャック・ルソー全書簡集』はアール・ニー

ジャン・ジャック・ルソー全書簡集

——アール・ニー・レー——

Correspondance Complète de Jean Jacques Rousseau

édition critique établie et annotée par R. A. Leigh

Tome I (1965), Tome II (1965), Tome III (1966), Tome IV (1967)

レーが十五年の才月を費して既存の一切のルソー往復書簡を直接照合・対比・検討した一大集成であり、従来のデュフル版に代るべき決定版といえよう。研究者というより多分にルソー狂であったデュフルと異なり、レーは古典校訂者、古典文献学者としての十分な基礎訓練と識見を備えており、本書簡集もレーの指導者であるテー・アッシュ・ベステルマンの支援と指導のもとに公刊されている。現にデュフル版と対比してみると、文献・資料蒐集の範囲、校訂の厳密性、解説の詳細さ等あらゆる面において雲泥の差が見られる。レーはベステルマン——『ヴォルテール書簡集』(ブレイヤード版)刊行中——のヴォルテール書簡集に倣って校訂を行ない、校註を(1)草稿由来、(2)印刷書簡由来、(3)註記、(4)解説の四項目に区分して、それぞれの書簡に詳細きわまる註を付しているが、それによりレー自身が述べているごとく『告白』その他の内容の批判はもとより、ルソーの文学的・思想的発展過程について無数の新事実が明らかにされるものと期待される。

ついでながら、デュフルが六十年かかった事業を、レーは全く白紙から出発して——レーはデュフル版を完全に無視したのか、序文でも一言も触れていない!——、十五年で完成し、しかもはるかに優れた成果を収めているが、これには科学技術の発展が大いに貢献している。レー自身欧米諸国に足を運んで書簡館の現状に照して若干の感慨なしとしない。

原稿や資料を検証したと書いているが、それにさいし、マイクロ・フィルムその他の文献学的用具が最大限に活用されている。すなわち、マイクロ・フィルムやリコー器が文献学・書誌学等の発展に画期的飛躍をもたらしたのである。この点日本の図書館の現状に照して若干の感慨なしとしない。

最後に本書簡集は故大沢章教授の御蔵書を本学図書館が受継いだものと聞いているが、幾たびかルソー論を拝聴した故教授の御熱弁と御温顔を偲びつつ、viam impendere vero (真理ニ人生ヲ捧ゲル) というルソーの生涯の標語を身をもって実践された先生の御冥福を謹んでお祈り申し上げます。

社会学部教授 福 鎌 忠 恕

貴重書から

金葉集は白河院の院宣によって源俊賴が撰進した第五勅撰集で、内容は十巻。従来二十巻本という型を破ったところに新しさがある。部立は、春・夏・秋・冬・賀・別離・恋上・恋下・雑上・雑下とし、雑下の中に連歌の部を立てていることも目新しいといえる。

ところで、金葉集の場合一番問題になるのは、その撰進の事情である。天治元年(一二三〇)に院宣を受けた俊賴は早速撰進に着手し、同年末あるいは遅くとも翌二年の初めごろまでには業を終えて、いわゆる初度本を観覧に供したと考えられている。ところが、この初度本の編集は白河院の御意に召さず、返却されることになった。返却の理由は、今鏡以下の記録に従えば、貫之の歌が巻頭に、あること、白河院の覚えがよくない覚雅法師の歌が二番目に位置していること、一般に三代集の作者の詠草が多いこと等々であったという。そこで俊賴は改編して、天治二年(一二三三)の四月ごろいわゆる二度本を奏上したが、これまた院のお気に召さず俊賴の手許へ返却された。三たび改訂して大治元年(一二三〇)もしくは翌二年の初めに草稿のまま奏覧に供したところ、やっと院はご嘉納になったという。したがって、撰者の手許には奏覧本が残っていないことになり、専ら二度本が世

間に流布することになったといわれる。

この奏覧本を、三奏本または三度本と称している。袋草紙によれば「此集本不定也」とあり、二度本に当代歌人の詠草が多いこと、三奏本に兼盛・能宣の歌、玄々集・拾遺集の歌が入っていることなどが指摘されている。

このような撰進事情を有しているため、金葉集の伝本も、初度本・二度本・三奏本の三種に大きく分かれる。そのうち、真の初度本というのは、静嘉堂文庫蔵の伝為相筆本のみで、これは巻五まで

田武夫博士の『勅撰和歌集の研究』や『金葉集の研究』に詳しいが、最近でもその研究は盛んであり、目加田さくを博士による二度本中歌数の多い系統本の刊行(細川家本、西日本国語国文学会翻刻双書)、橋本不美男氏による二度本中いわゆる精撰本の刊行(天宮御所旧蔵本、赤羽淑氏を中心とするノートルダム清心女子大グループの初度本から三奏本へかけての幅広い研究(古典叢書刊行および「古典研究」誌上での考究)等々、それぞれに秀れた業績といふべきである。

田武夫博士の『勅撰和歌集の研究』や『金葉集の研究』に詳しいが、最近でもその研究は盛んであり、目加田さくを博士による二度本中歌数の多い系統本の刊行(細川家本、西日本国語国文学会翻刻双書)、橋本不美男氏による二度本中いわゆる精撰本の刊行(天宮御所旧蔵本、赤羽淑氏を中心とするノートルダム清心女子大グループの初度本から三奏本へかけての幅広い研究(古典叢書刊行および「古典研究」誌上での考究)等々、それぞれに秀れた業績といふべきである。

伝姉小路基綱筆

金葉和歌集

(表紙写真版解説)

の残欠零本である。一方、二度本は種類が多く、三類に分かれる。すなわち、第一類は、八代集抄よりも歌数の多い本、第二類は八代集抄本系の流布本、第三類は流布本よりも歌数が少なく、三奏本に最も接近しているいわゆる精撰本、の三種である。また、三奏本としては伝後京極良経筆本(岩波文庫所収本)・吉田幸一博士蔵伝藤原為遠筆本(東洋大学紀要第六輯所収の吉田博士のご論考参照)・黒川家旧蔵本(ノートルダム清心女子大古典叢書I)の三本が知られるのみである。金葉集の伝本研究としては松

一例として、平安末期の歌人曾祿好忠と金葉集との関係を見ると、伝為相筆本(初度本)には好忠の歌六首、国歌大観(二度本)には好忠の歌なし、岩波文庫本(三奏本)には好忠の歌六首という結果がつかめる。しかも、初度本の六首と三奏本の六首とは、その中の四首が一致するだけであるという現状である。

ところで、掲出本の金葉集は、伝姉小路基綱筆、一帖。文明ごろの写。黒塗りの桐箱入り、綴葉装。タテ二六・二×ヨコ一六・七センチ。表紙は、草花模様を

織り出した薄橙茶色の絹表紙。原裝。見返しには、金銀の箔を散らしてある。外題はない。箱書には後人の筆で「姉小路基綱卿筆 金葉集 一冊」と記した短冊型の紙が貼布されている。古筆鑑定家琴山の極書があり、それにも「姉小路基綱卿」と記されている。基綱は、室町時代の歌人(二四四―一五〇〇)。正二位権中納言に至り、飛鳥井雅親に歌を学んだ人として著名。書風は伝基綱筆といふべきであらう。

本文料紙は鳥の子。紙数は、第一・二・三・四・五折各十枚。第六折七枚で、計百十四丁。うち、首に二丁、尾に五丁、白紙がある。墨付百七丁。一面十行書。和歌一首一行書、詞書三字下り。奥書・識語はない。書き入れ、注記も存しない。蔵書印は、巻末に「月明荘」の朱印が押されているのみ。

本書の本文系統は、明らかに二度本に属する。ただし、所収歌数は六百八十首。『八代集全註』(有精堂刊)所収の「八代集抄」本に比して、本書は三十一首の歌を欠く。また、同書に比して本書は六個所に歌順序の異同を有する。精査を経た上でないと明確ではないが、おそらく本書は二度本中の第三類いわゆる精撰本系に近い有力な一伝本であらう。

文学部助教 神作光 一

類 縁 機 関 案 内 (2) 参 考 係

資料調査に当って利用しうる各種の図書館及び類縁機関のうち、主要なものから紹介して行きたいと思います。

名 称	所 在 地	電 話	交 通 機 関	利 用 資 格 (入館料)	開 館 時 間	休 館	資 料	備 考
国際連合広報センター	千、大手町新大手町ビル内	(三二二) 〇六〇九	(地) 大手町	一般	九、三〇〇一八(月)金	祭日土	国連刊行物	
国鉄図書室	千、丸ノ内一―一 国鉄本社内	(三三三) 六三二二	(国) 東京	一般	九、三〇〇一六	祭日土	交通関係	
国立科学博物館図書室	台、上野公園内	(八三三) 三七七二	(国) 上野	研究者	九、一六	月	自然科学関係 約二万冊	
国立教育研究所附属教育図書館	目、下目黒四―一〇	(七二四) 〇一〇一	(東横) 学芸大学	一般 (20才以上)	九、一六、三〇	祭日	教科書、教育史、教育制度資料	「教科書索引」一七七〇〇冊
国立競技場付属スポーツ図書館	新、霞ヶ丘一〇	(四〇四) 一五二一	(国) 千駄谷	一般	九、一七	祭日	スポーツ関係図書 五〇〇〇冊	
国立国会図書館(NDL)	千、永田町一―一四	(五八八) 二二三二	(都) 国会議事堂前	一般	九、三〇〇一七	祭日 月末		
NDL支部 上野図書館	台、上野公園内	(八三三) 三七八六	(国) 上野	一般	九、一六、三〇	祭日 月末		
静嘉堂文庫	世、岡本町九一二	(七〇〇) 〇〇〇九	(玉川) 瀬田	要紹介	八、三〇〇一六、三〇	祭日 月末	二〇万冊	「静嘉堂文庫目録」
東洋文庫	文、駒込上富士前一四七	(九四四) 〇〇二二	(都) 上富士前	要紹介	九、一六、三〇 (土二二)	祭日	東洋学関係 五〇万冊	「東洋学関係 五〇万冊 木曜午後十一月九日休館」
最高裁判所図書館	千、霞ヶ関一―一	(五八六) 五四二一	(地) 霞ヶ関	要紹介	九、三〇〇一六、三〇 (土二二)	祭日	法律関係(裁判)	
市政専門図書館	千、日比谷公園市政会館内	(五九二) 一一〇一	(国) 新橋	20才以上	九、一七	祭日	都市関係資料、官報、法令集	「身分証明書」要 九五〇〇冊
児童図書日本センター	台、上野公園JNA内	(八三六) 三三六八	(国) 上野	一般	九、一七	祭日	児童図書資料	「ニュースレター」(年四回)
ジャパン・カタログ・センター	台、御徒町葛城ビル内	(八三六) 五〇四一	(国) 御徒町	一般	九、一七、三〇	祭日	内外製品カタログ	
松竹大谷図書館	中、築地一―一三一	(五五三) 五五五一	(地) 東銀座	一般	一〇、一七	祭日	歌舞伎、新派文楽、映画等	
世界の絵本文庫	世、豊分町一―至光社内	(四三三) 九一五一	(都) 下通二丁目	会員制	一、二一、一七(月金のみ)	祭日	世界各国の絵本	「予約金一〇〇要多数の時は1日」
総理府統計局図書	新、若松町九五	(四四一) 八六〇九	(国) 新大久保	研究者	九、一六、三〇 (土二二)	祭日	経済、人口統計	一三六、〇〇〇冊
大東急記念文庫	世、玉川上野毛町一―一	(七〇〇) 五九三二	(田園都市) 上野毛	要紹介	九、三〇〇一六、三〇	祭日	国書、仏書、名家筆蹟	約三万冊
中央区立京橋図書館	中、築地一―二八	(五五四) 四〇三九	(都) 築地二丁目	一般	九、一七	祭日		
通商産業省データセンター	千、霞ヶ関三―一	(五〇一) 一五一一	(地) 霞ヶ関	一般	九、一七	月 一四日	統計経済情報	外部利用は不可、一九六二・七設立

寄 贈 図 書

43. 1 ~ 3

書 (1 月 分) 名

私立大学図書館協会 加盟図書館員名簿
 証券投資信託年報昭和41年度版
 東京市史稿市街篇 59
 成城学園五十年
 西南役熊本隊概記, 大阿蘇めぐり, 電波はわが悪友
 史料館所蔵民族資料図版目録 第1巻 日本篇(生活用具I)
 神奈川県史料 第4巻
 土方成美博士喜寿記念論文集
 社 史
 レーニン外伝
 社会主義と資本主義の50年
 明治大学, 増加図書目録 S. 41
 黒川文庫目録
 annals of the institute of statistical mathematics Vol. 19.
 No. 3. 1967
 神奈川県立川崎図書館, 蔵書目録, 第4集(昭40.12末現在, 和書の部)
 月星ゴム90年史
 ひとつじの道
 愛知学院大学増加図書目録 S. 41
 哲 学 年 報
 学 術 研 究 年 報
 諸外国郵政庁業務報告書
 東京に於ける小口混載の発達
 Handbook of the economic history association
 (2 月 分)

日本港運送事業史
 相 鉄 50 年 史
 松浦要句集
 SECURITY AND REDUCED TENSION
 文化科学原理
 テル・ゼロールII
 処世哲学
 ホテルマンの世界旅行
 徂徠先生社中碑文集補遺
 追放浪士の研究
 漢籍分類目録
 歴史の研究(A. J. トインビー) V. 4-5
 大正徒然草 第三版
 (3 月 分)

新工業所有権法講義(2冊)
 発明権立法の研究(4冊)
 使用人発明権論(2冊)
 学説判例 工業所有権法(2冊)
 日本画家二百六話
 米寿記念誌
 秩父三十四カ所
 江戸時代に於ける唐船持渡書の研究
 便利さの追求
 日本思想の系譜
 千代田図書館80年史
 核エネルギーの平和利用
 和歌書目録
 湖南博士と伍一大人
 歴史と人世観
 東京の各種学校(都市紀要17)
 味 百 年
 小林, 好日旧蔵書目録
 専修大学, 八十五年小史
 日本宗教新史
 円了漫録
 西航日録

寄 贈 先

私立大学図書館協会
 証券投資信託協会
 東京都
 成城学園
 熊本放送文庫
 文部省資料館
 神奈川県立図書館
 土方成美
 旭硝子株式会社
 ノーポスト通信社東京支社
 "
 明治大学
 実践女子大学図書館
 統計数学学会
 神奈川県立川崎図書館
 月星ゴム K. K.
 近藤寿治
 愛知学院大学
 九大文学部
 同志社女子大学
 郵政省大臣官房文書課総合企画室
 関東通運協会
 ニューヨーク大学 経済歴史協会

日本港運協会
 相模鉄道株式会社
 坂本市郎(本学教授)
 MARKUS-VERLAG
 大山幸太郎
 日本オリメント学会
 川西文夫
 "
 亀山聿三
 向井克胤
 東洋文庫
 「歴史の研究」刊行会
 水戸和一

滝野文三
 "
 "
 "
 難波専太郎
 市毛金太郎
 札所研究会
 関西大学東西学術研究所
 ゼネラル・フーズKK
 国民文化研究会
 千代田図書館
 日本国際問題研究所
 酒田市立光丘図書館
 高橋克三
 国民文化研究会
 都政史料館
 日本食糧新聞社
 福井大学附属図書館
 東洋大学八十年史編集部
 "
 "
 "

研修会報告

私大協会主催の第十回図書館長並びに主務担当者研修会が、一月二十四日から二十七日まで四日間茨城県土浦市京成ホテルで開催された。

本学からは、運営委員として和田先生・山内整理課長、一般参加者として私が参加した。第一日、二十四日夜は全国各地から集った参加者の紹介があった。

第二日、二十五日は型どおりの開会の辞や挨拶のあと、研修会のオリエンテーションに続いて矢次私大協会専務理事から私立大学の充実強化と国の文教政策について報告と解説があった。特記すべき事としては文部省管理局所管の私立大学等教育研究費補助金として三十億円が新規計上され、積算の基礎として教員一人当たり文科系六万円、理科系十四万円の定額補助が決った事である。午後は和田吉人先生の司会で、慶応義塾大学図書館学科訪問教授エベレット・ムーア氏(米国カリフォルニア大学教授)の「アメリカにおける図書館の現状について」と題する講演があり、その内容は、主として大学図書館だった。学部の増設をして学部学生の大量増員はリベラルアーツを非常に充実させ、又大学院課程もこれによって

充実し、更に教員の研究上の要求が増大

しその為の主題別図書館が設けられて分館とか、スペシャル図書館とかよばれている。

収書方針としては、図書選択の専門家が必要とするので各主題の専門家をおき教員と密接な連絡をとっている。一例としてカリフォルニア大学では十一名の主題専門家が専任で毎日図書選択の仕事をしている。又どんなに大きな大図書館でも予算には限度があるので無用の重複をさけながら一方では、米国の大学としてどこかの大学には必ず一部は所蔵されるようにして、相互利用に供している。MARCKと称する方式は、各大学のカタログを磁気テープに記憶させ、これを加盟大学に配布しコンピュータで再生させると印刷カードよりも早くて正確な記録ができる。

このような研究に対して、米国政府は補助金を出している。学問の急速な発達により、情報を求める学者は今までのような図書館の方法では新しい科学技術の情報を検索するのは不可能になると指摘する。今までの成果を土台として大きな飛躍が望まれる。

四時半からは、「図書館委員会の現状及び今後の活動計画並びに図書館界の現

況等について」と云う東京電気大学藤田館長からの報告と解説があった。

第三日、二十六日は「改訂版私立大学図書館運営要項の各大学における実施・活用方策について」高井委員長から提案解説の後、二班に分れて討議を行なった。

旧版と改訂版との相違点、改訂の根拠、実情と改正の為の解釈と方策のたて方などについて、終日活発な討論がかわされたが、各大学それぞれの事情や財政問題も関連して、運営要項の実施には相

当の努力を要するようであった。

夕食後は鶴見女子大学中根副館長から欧米の図書館視察報告の講演があった。

第四日、二十七日は午前中「大学教育のあり方について」と云う平塚益徳国立教育研究所長の講演で、目下世界各国で盛んに研究されている大学教育とは何か、そのあり方を約三時間話された。略記すると、ヨーロッパにおける大学発生の社会的背景から始まり、発生形態、各国に設立された大学の特色と設立者たち、それらの大学の推移、一般社会との関係、宗教との関係、アメリカの大学の特色、英国の大学の独自性、大学の大学たる所以は図書館にあるとし、現代の世界各国の大学の制度、教育制、教育制度を説き、更に、未来の大学のあり方の一端を示したが、それは、かつてのポロニア大学のように、社会人が教育をうけること、一度社会に出た人が再教育を受ける為の門戸を開放すべきであり、人間は生

涯勉強せねばならぬ。

十一時半から一時間ほど前日の別班討議の報告と全体討議があつて全日程を終了した。

工学部分館

米山 大恵

学内関係刊行物案内(二)

- 白山 哲学 東洋大学哲学会 一九六二・一〇一No. 一年刊 A5
- 白山英文学 東洋大学白山英文文学会 一九五七・一No. 一年二回 A5
- 白山史学 東洋大学白山史学会 一九五三・十二No. 一年刊 A5
- 近代文学 東洋大学国語国文学会 近代文学研究会 一九五七・九No. 一年刊 B5
- 王朝文学 東洋大学国語国文学会 王朝文学研究会 一九五八・十一No. 一年刊 A5
- 上代文学 東洋大学国語国文学会 上代文学研究会 一九五九・九No. 一年刊 A5
- 芸能史研究 東洋大学国語国文学会 謡曲研究会 一九六一・六No. 一年一〜二回 A5
- アジア・アフリカ文化研究所年報 一九六七・五No. 一年刊 B5
- 東洋大学工学部教養課程研究報告 東洋大学工学部 一九六五・六No. 一年刊 B5
- 東洋大学工学部研究報告 東洋大学工学部 一九六五・六No. 一年刊 B5

図書分類について思うこと

図書館の仕事で特に思索を要求されるのは分類である。分類することがむずかしいと云うだけではなく、一冊の本をどのように分類するかが、その本の配架の場所を決定するし、それによって利用者がその本にふれることのできる条件を或る程度決めてしまうことになる。まさに分類の仕方の中にその図書館の性格が現れるわけである。

例えば、数学の本は文句なしに410の中に入るが、書名の上に「工業」とか「応用」とかの文字がつくと、工業数学、応用数学として501.1の中に入ることになる。しかし内容的に云って両者は二つに分けなければならぬほどの違いがあるわけではない。特にまぎらわしいのは化学(430)と工業化学(570)である。化学者であろうと工業の技術者であろうと、又化学の本であろうと、工業化学の本であろうと、そんなに明確な区別はつけ難いものである。恐らく化学の専門家であっても一冊の図書を手にしたとき迷わずにはおれないであろう。しかし一度分類されると、それによって全くかけ離れた書架のどちらかに入れられることになる。物理化学(413)と化学物理

(438)とは同じ言葉がただ順序を逆にしただけで、素人の我々には内容的にはっきりと区別することができない。記号論理学(116.3)は哲学の分野に入ることになっているが、内容的には現代数学の一部門とほとんど同じものである。そんなことを考えていくと、本を分類するところがとても大変な仕事であって、ただむずかしいと云うだけではなく、危険な仕事のようにも思えてくる。

最近のように、凡ゆる学問が専門化し、深められ、思わぬところに新しい分野が開けたり、今まで考えられなかったような利用の道が開発されたりしている時代にあつては、平板な分類表では手も足も出なくなってしまう。恐らく日本十進分類表は遠からずして、時代について行けなくなってしまうのではないだろうか。

それならばどうすべきか。私とて分る筈がない。一つには閲覧係が常に注意して、分類では及び得ない点を補うためにサーヴィスの面で努力しなければならぬであろう。そのためにはすべての閲覧係は同時に参考係であるとする自覚が必要だ。そして、それが充分生かされるた

めには利用者が何でも相談してくれるようななごやかな雰囲気を持った閲覧室にしなければならぬ。結局どんな仕事でも、全員の協力なくしては完成され得ないのである。分類作業は図書館全体の仕事に関係し、更に大学全体に関係しているのである。

分館員 中村

図書館

工学部では教室の授業と並んで実験室での研究が重要な要素になっていることは云うまでもありません。しかし教室と実験室での研究が有効になされるために学生達は頻繁に図書館の図書を利用します。工学関係のものや特に実験指導の図書などは幾人もの手あかがついて大変汚れたり、いたんだりしました。ただ文科系の図書などをじっくり読もうとする学生は比較的少ないようです。

過去一年間の利用状況を示しますと次の通りです。

一年間総貸出し	五一四二冊
月平均(貸出し数休暇貸出しを除く)	四二六冊
夏休み貸出し数	六一一冊
冬休み貸出し数	四六〇冊
教職員 一年間総貸出し	四二八冊

(雑誌は含まません)

分館員 坂本ヨシ

図書館関係諸会議 (I) 学内 (II) 学外

- | | |
|---|--|
| (I) 図書館建設準備委員会 (第12回)
43.2.6 (火) 来 賓 室 | 図書館運営委員会 (42年度第4回)
43.3.19 (火) 参 考 室 |
| 図書館選択委員会 (42年度第5回)
43.3.1 (金) 来 賓 室 | 議題: 1) 昭和43年度図書予算について
2) その他 |
| 議題: (イ) 図書選択 (ロ) その他 | 図書館建設準備委員会 (42年度第14回)
43.3.19 (火) 参 考 室 |
| 図書館運営委員会 (42年度第3回)
43.3.8 (金) 来 賓 室 | 議題: 1) 新図書館の規模と予算について
2) その他 |
| 議題: 1) 43年度予算について 2) その他 | (II) 図書館長並びに主務担当者研修会(私大協会主催)
(第10回) 43.1.24~27 茨城県土浦市京成ホテル
出席者: 山内, 米山 |
| 図書館建設準備委員会 (42年度第13回)
43.3.9 (土) 会 議 室 | |
| 議題: 1) 新図書館の規模と予算について
2) その他 | |

1967年度 参考室統計 1967.4.1~1968.3.31

(1) 参考室に寄せられた質問に関する統計

(A) 内容について

文 献 調 査	61 件
所 蔵・所 在 調 査	221 件
記 載 事 項 調 査	131 件
そ の 他	23 件
計	432 件

(B) 利用者について

	文 献 調 査	所蔵・所在調査	記載事項調査	そ の 他	計
学 生	46	160	92	20	318
教 職 員	14	43	33	1	91
一 般	1	18	6	2	27
計	61	221	131	23	436

(C) 上記のうち文献調査について

0 0 0 — 5 件	5 0 0 — 1 件	
1 0 0 — 3 "	6 0 0 — 6 "	
2 0 0 — 1 0 "	7 0 0 — 3 "	合 計 6 1 件
3 0 0 — 1 7 "	8 0 0 — 2 "	
4 0 0 — 2 "	9 0 0 — 1 2 "	

文献調査については学術的調査以外に一般図書類の調査も含まれています。又 000—総記 100—哲学 200—歴史 300—社会・科学 400—自然科学 500—工学 600—産業 700—芸術 800—語学 900—文学 を示しています。(日本十進分類法)

(D) 1968.3.31日現在蔵書構成

0 0 0 — 2011 冊	696 タイトル	5 0 0 — 322 冊	126 タイトル
1 0 0 — 264 冊	169 "	6 0 0 — 559 冊	208 "
2 0 0 — 640 冊	277 "	7 0 0 — 162 冊	81 "
3 0 0 — 1370 冊	662 "	8 0 0 — 665 冊	389 "
4 0 0 — 150 冊	118 "	9 0 0 — 180 冊	132 "

(E) 複写のための貸し出し

6 0 7 件	計 6323 冊	2458 タイトル
---------	----------	-----------

初めての試みとして簡単な統計を考えてみました。これを機会により充実した統計の作成に進みたいと考えております。